

平成 28 年山間集落实態調査

【集計結果】

平成 28 年 9 月

山間集落实態調査参加市町
鳥取県 とっとり暮らし支援課

目 次

1	調査の枠組み	1
1	1 調査概要	1
2	2 調査の方法	1
3	3 調査対象	2
2	調査結果	3
1	1 人口・世帯数の動向	3
①	① 集落の人口規模と高齢化	3
②	② 世帯構成	6
③	③ 転入・転出の状況	7
④	④ 将来の定住意向と家族のUターン意向	8
2	2 生活の実態	10
①	① 運転免許証	10
②	② 通勤・通学	11
③	③ 通院	12
④	④ 買い物	13
⑤	⑤ 保育園等への通学・通園	15
⑥	⑥ 暮らしの様子	16
⑦	⑦ 住まいの環境	18
⑧	⑧ 情報通信機器の活用	19
⑨	⑨ 災害対策	21
3	3 集落の環境と運営	23
①	① 山林・農地	23
②	② 道路	24
③	③ 地域おこし協力隊・集落支援員	25
④	④ 集落を超えた取り組みと地域の課題	26
3	3 特長的集落の抽出	27

1 調査の枠組み

1 調査概要

中山間地域は少子高齢化、人口の減少が著しく、農地荒廃や集落機能低下等の様々な問題を抱えている。本調査では、特に過疎化及び高齢化の進展が著しい山間地域の最奥部集落に居住する住民の日常生活の状況等を把握し、これまでの中山間地域振興施策の成果を分析して、次期中山間地域振興施策の検討を行うための基礎資料とすることを目的とし、平成2年から5年おきに実施している。

2 調査の方法

1. 調査の内容

・世帯調査及び集落点検調査

- 1) 世帯調査：世帯別の生活実態を把握するため、調査対象集落の全世帯に配布、調査を行った。
- 2) 集落点検調査：集落全般の内容について把握するため、各集落の代表者から聞き取りを行うとともに各市町が把握している集落情報を調査した。

2. 調査基準日 平成28年5月1日（日）

3. 調査手順

- ・調査票（世帯調査）の配布 平成28年4月中～下旬
- ・調査票の記入期限 世帯調査 平成28年5月末日
集落点検調査 平成28年6月末日
- ・調査票の回収終了 平成28年8月上旬

4. 調査項目（一例）

・世帯調査

家族の状況、生活範囲、世帯収入、住まいの環境・暮らしの様子、暮らしの安全、家族の進学・就職・Uターンの状況、将来の見込み、山林・農地の所有状況など

・集落点検調査

人口・世帯数・高齢化率、空き家の状況、積雪時の雪かき対応、地域運営組織の意向、集落内の課題など

3 調査対象

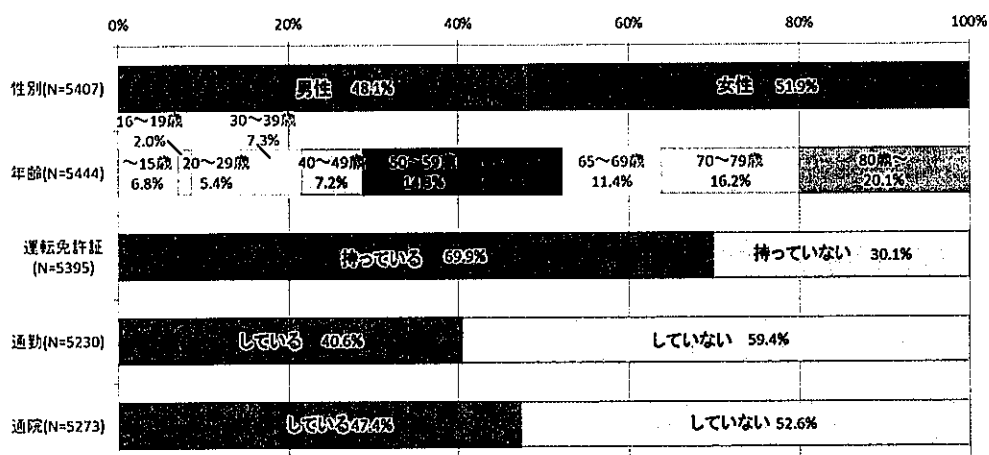
(1) 調査対象集落

山間谷部奥地に位置する111集落（今回市町の希望により2集落を別途追加）
（平成2年、7年、12年、18年、23年調査と同集落）

【調査対象集落の概要】（集落点検調査より）

- ① 世帯規模（中央値） 18世帯
最小集落 2世帯（2集落） 最大集落 99世帯（1集落）
- ② 人口規模（中央値） 42人
最小集落 2人（1集落） 最大集落 240人（1集落）
- ③ 高齢化率（平均） 45.5%
最小集落 18.9%（1集落） 最大集落 100%（4集落）

【回答者（世帯主）の概要】（世帯調査より）



(2) 回収状況と回収率

【集落点検調査】

113集落（113集落※中 100%） ※111集落と追加2集落の合計

【世帯調査】

2,025世帯（2,497世帯※中 81.1%）

※111集落2,485世帯と追加2集落12世帯の合計

2 調査結果

1 人口・世帯数の動向

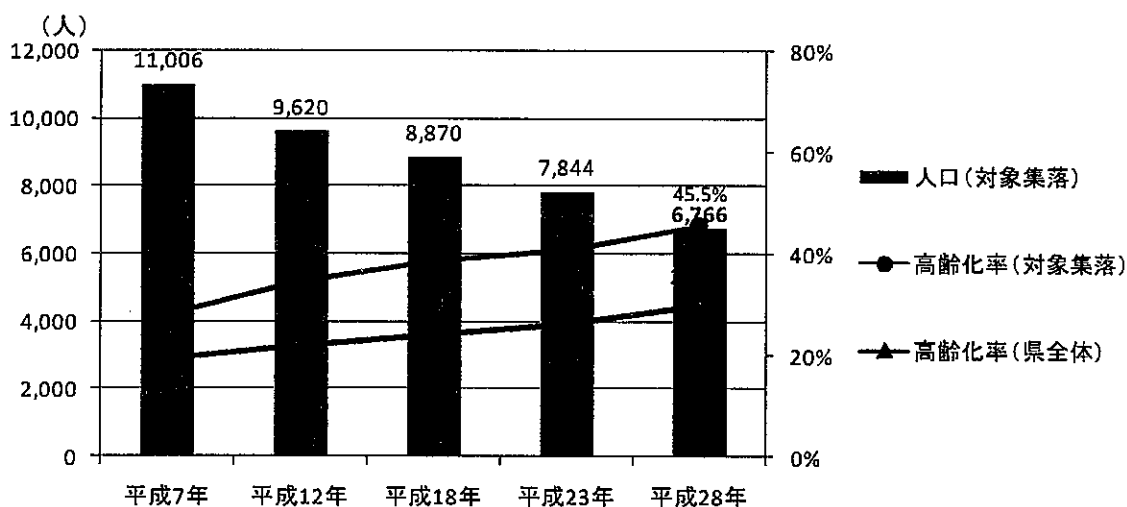
① 集落の人口規模と高齢化

- ・高齢化率は進行し、平均で45.5%となっている。
- ・集落の人口規模・世帯規模は共に縮小しており、人口では29人以下、世帯数では15世帯以下の規模の集落が増加している。

(1) 人口・世帯数・高齢化率の推移 《集落点検調査より》

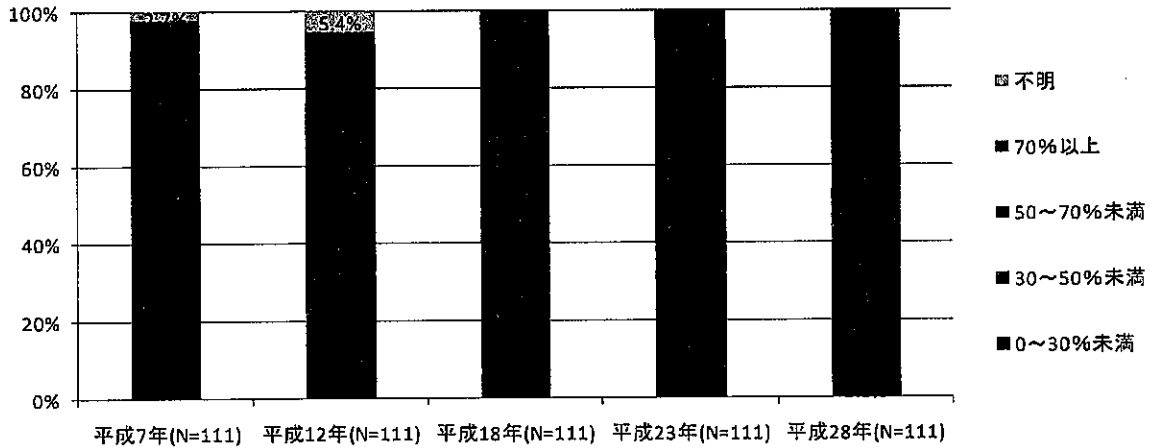
区分	平成7年	平成12年	平成18年		平成23年	平成28年	
			H7との差	H12との差		H18との差	H23との差
集落人口(人)	11,006	9,620	-1,386	8,870	7,844	-1,026	6,766
	100.0%	87.4%	-12.6%	80.6%	71.3%	-9.3%	61.5%
県全体	614,929	613,289	-1,640	607,012	588,418	-18,594	573,648
	100.0%	99.7%	-0.3%	98.7%	95.7%	-3.0%	93.3%
集落世帯数(世帯)	2,912	2,786	-126	2,736	2,654	-82	2,485
	100.0%	95.7%	-4.3%	94.0%	91.1%	-2.9%	85.3%
県全体	188,866	199,988	11,122	208,526	211,832	3,306	215,542
	100.0%	105.9%	5.9%	110.4%	112.2%	1.8%	114.1%
高齢化率(%)	28.1%	34.5%	6.4%	38.7%	40.8%	2.1%	45.5%
県全体	19.3%	22.0%	2.7%	24.1%	26.3%	2.2%	29.7%

※県全体の数値は「鳥取県年齢別推計人口(平成27年10月1日現在)」、「平成27年国勢調査による人口・世帯数(速報値)」を使用



(2) 高齢化率の推移 《集落点検調査より》

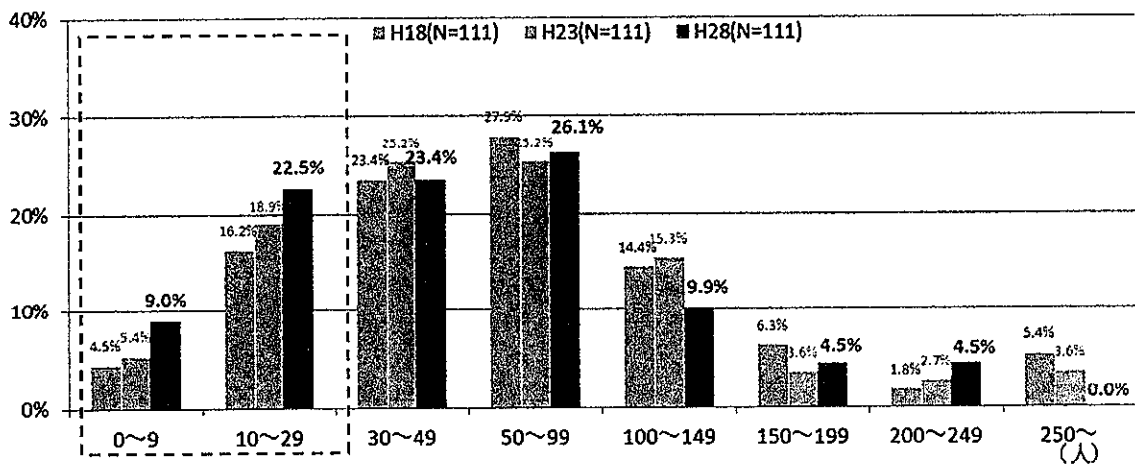
平成7年の調査以降、集落の高齢化が進み、高齢化率が50%以上の集落が45.9%と、ほぼ半数の集落が50%に近づいている状況。



区分	平成7年	平成12年	平成18年	平成23年	平成28年
調査対象集落	28.1%	34.5%	38.7%	40.8%	45.5%
県全体	19.3%	22.0%	24.1%	26.3%	29.7%

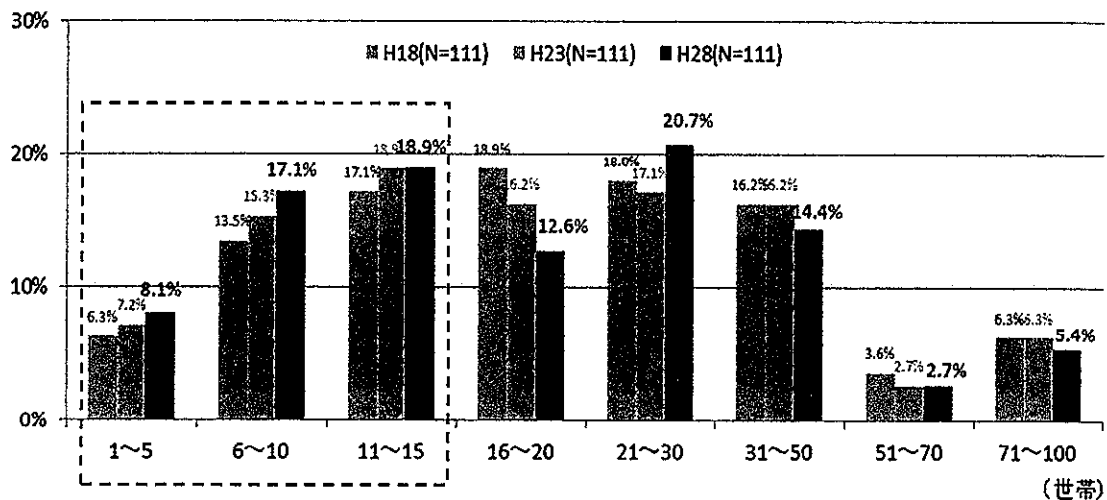
(3) 集落の人口規模の推移 《集落点検調査より》

集落の人口規模が、だんだんと小型化している状況。



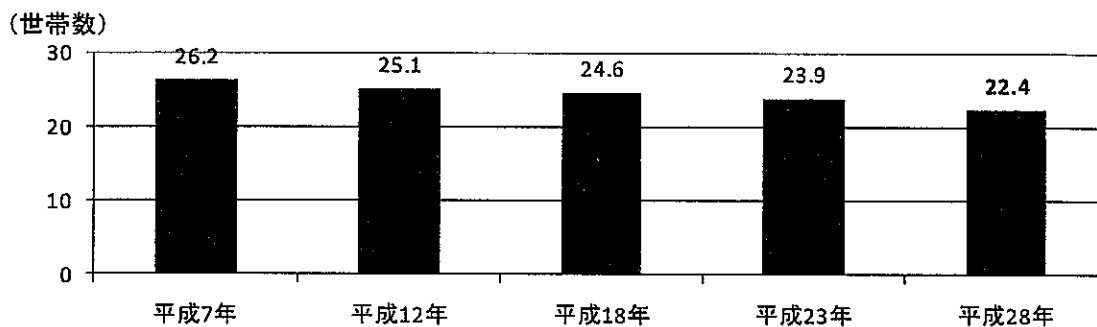
(4) 集落の世帯規模の推移 《集落点検調査より》

集落の世帯規模が少なくなり、集落の小型化が進行している状況。



(5) 集落における世帯数の平均値の推移 《集落点検調査より》

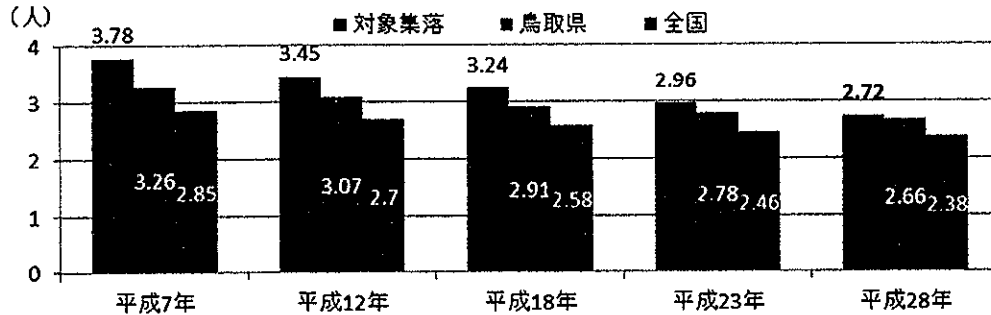
調査対象集落における平均的な世帯数が減少し、集落の小型化が進行している。



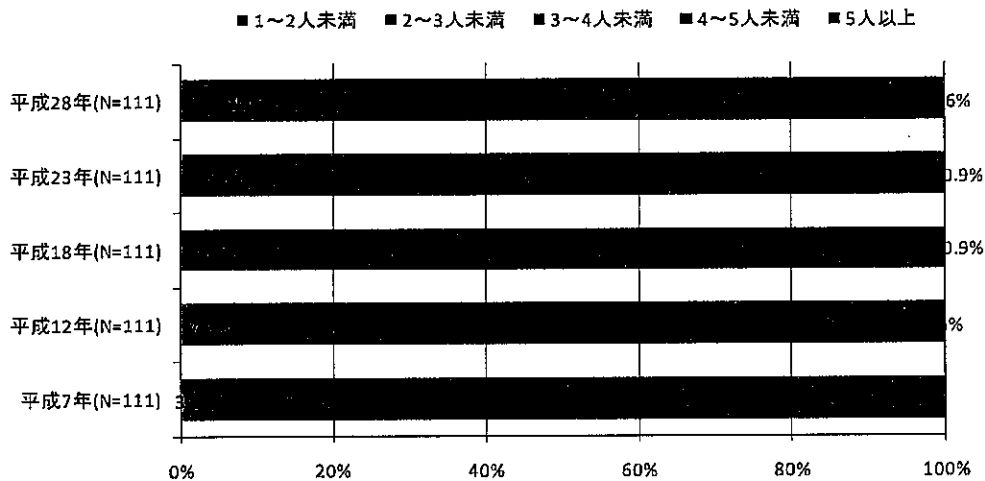
② 世帯構成

- ・世帯あたりの構成員は減少し、平成28年では平均2.72人となっている。
- ・独居世帯の割合も増加し、集落内で独居世帯が30%以上の集落の割合が高くなっており、独居世帯が80%以上の集落割合は3.6%となっている。

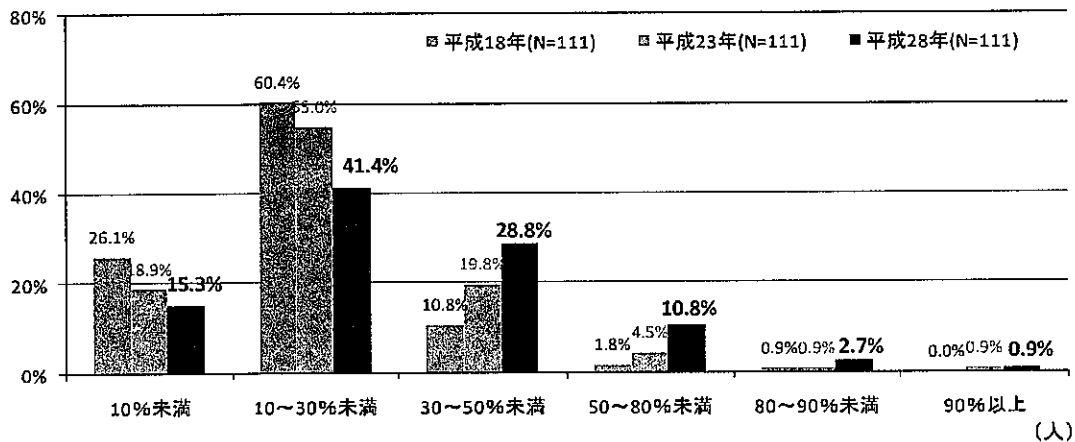
(1) 1世帯あたり構成員の推移 《集落点検調査より》



(2) 世帯人口の推移（集落単位） 《集落点検調査より》



(3) 独居世帯の状況 《集落点検調査より》

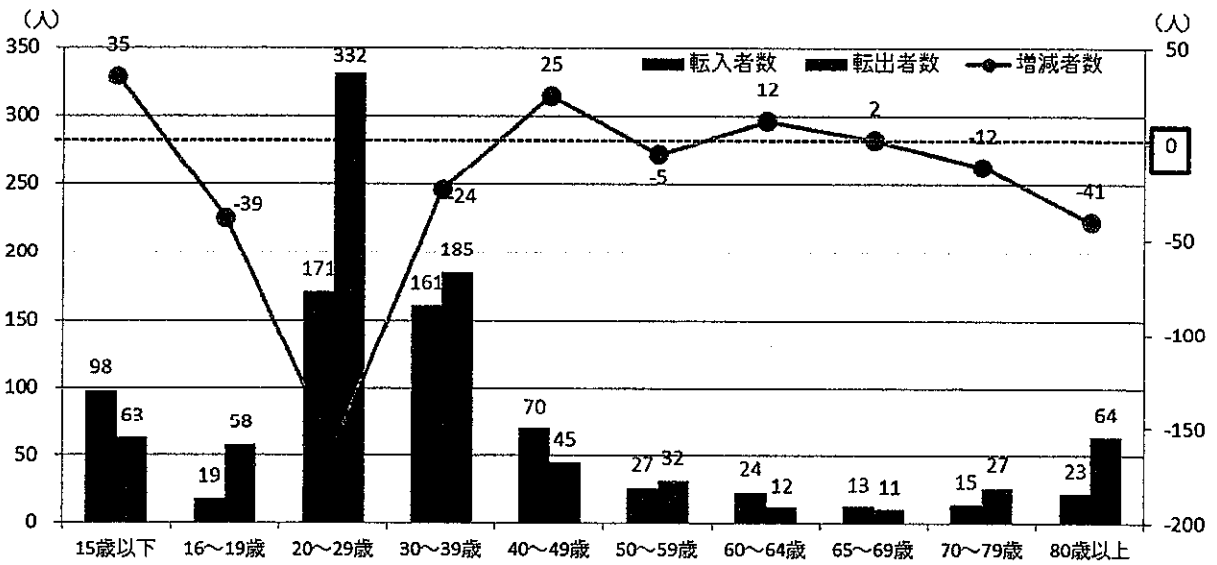


	平成18年	平成23年	平成28年
独居世帯	419	507	605
独居世帯の割合	15.3%	19.1%	24.3%

③ 転入・転出の状況

- ・ 転入・転出者数はともに 20～39 歳で多くなっている。
- ・ 20～29 歳で純増減数が 161 人と大きく減少している一方、30～39 歳では転入と転出がほぼ同程度で純増減数が 24 人の減少に留まっている。

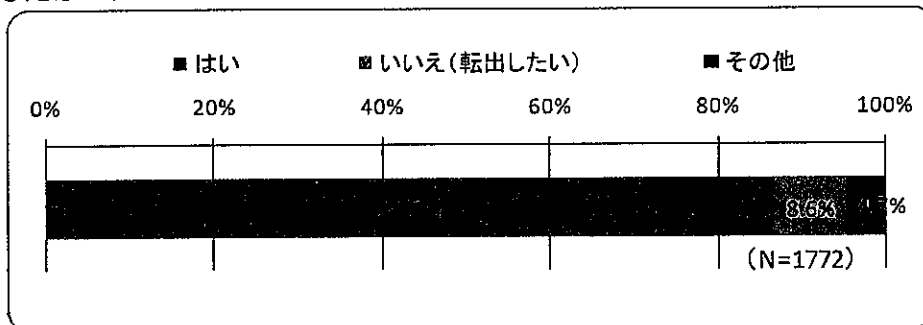
(1) 転入・転出者数(年齢区分別) 《集落点検調査より》



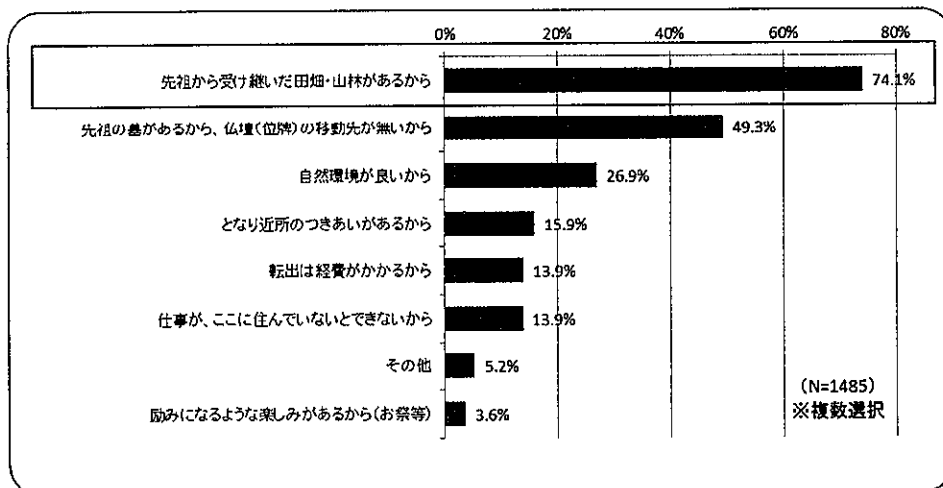
④ 将来の定住意向と家族のUターン意向

- ・集落の定住意向は86.7%が住み続けたいと回答した。
- ・集落に住み続けたい理由として、「先祖から受け継いだ田・畑・山林がある」との回答が74.1%と大半を占め、併せて生涯住み続けると回答した方も47.5%と高い状況。

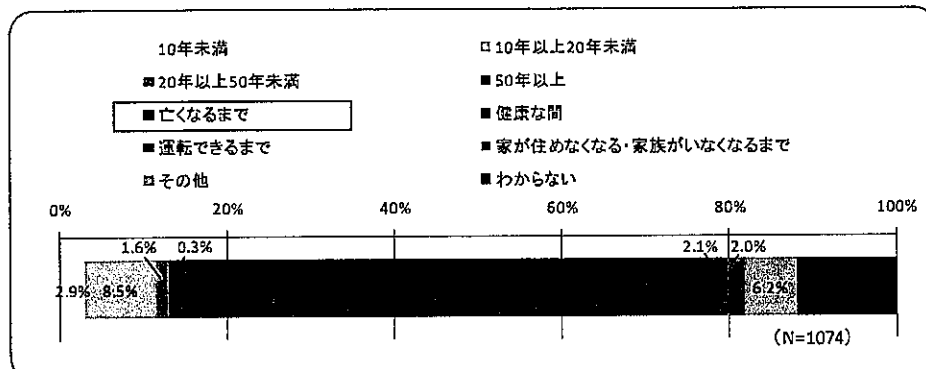
(1) あなたはこれからも、この集落に住み続けたいですか。 《世帯調査より》



(2) 集落に住み続けたい理由 《世帯調査より》

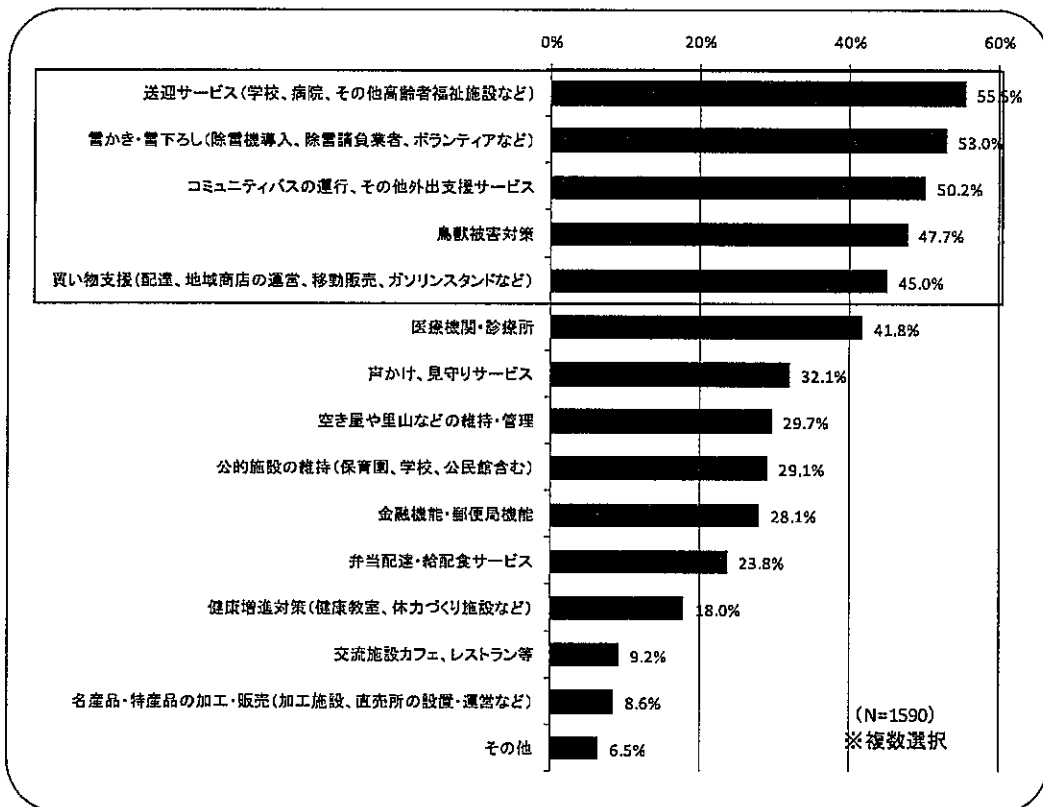


(3) あなたはこの集落にいつまで住めると考えますか？ (自由記述) 《世帯調査より》

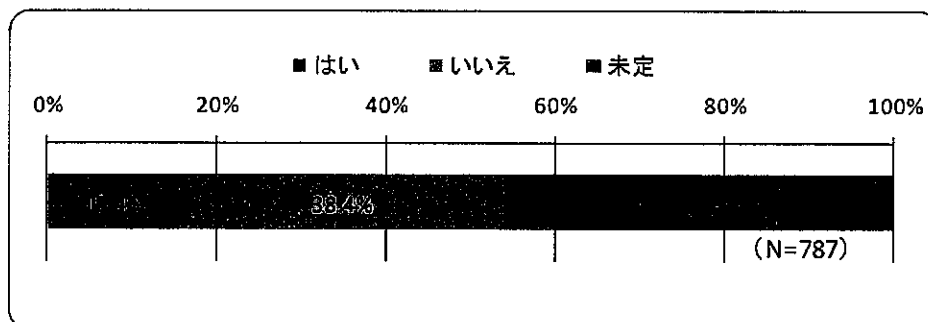


- ・集落で住み続けるために必要なものは、上位5位のうち「送迎サービス」「コミュニティバスの運行」など移動手段の確保が重視されている。
- ・家族のUターンの予定では「未定」との回答が46.3%となっており、Uターン対策を強化し、実際のUターンにつなげることで将来の集落の状況改善に期待が持てる状況。

(4) あなたがこの集落に住みつづけるために必要なもの(機能)は何ですか?《世帯調査より》



(5) 跡とりの方は、将来自宅又は集落内に帰ってくる予定ですか? 《世帯調査より》

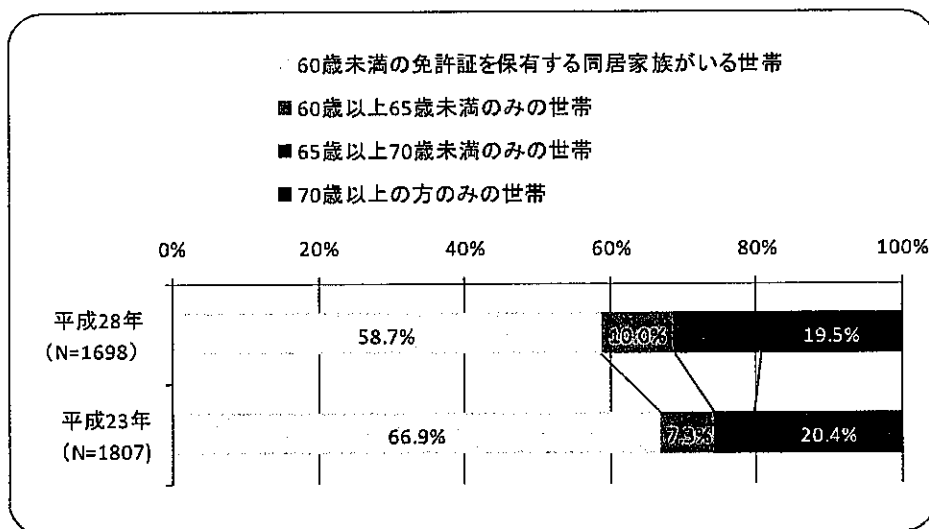


2 生活の実態

① 運転免許証

- ・調査対象集落において、通院等のために主に誰が運転しているか調査するため、免許を保有する同居家族の年齢を調査したところ、60歳未満の免許証を保有する同居家族がいる世帯割合が低下している。

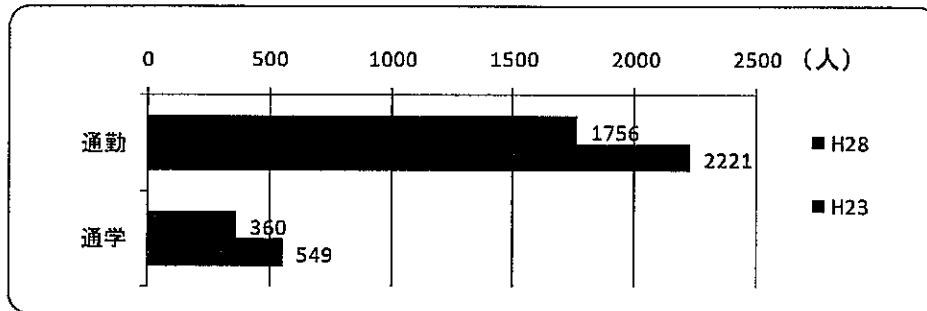
(1) 運転免許を保有している世帯の年齢構成 《世帯調査より》



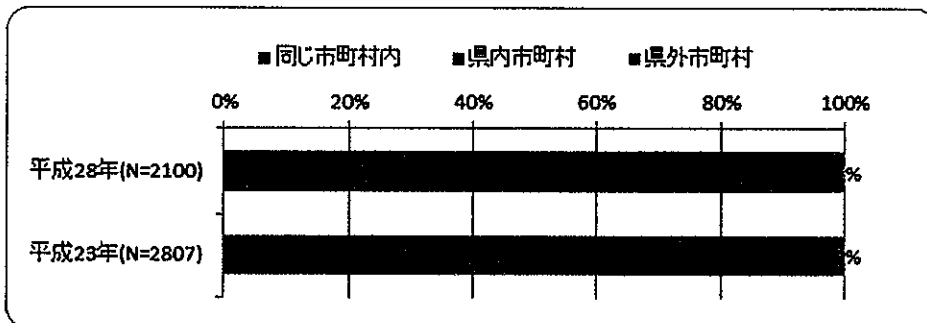
② 通勤・通学

- ・通勤・通学の範囲として、同じ市町村内が平成23年の60.1%から46.0%へと減少し、居住している市町村外への通勤・通学が増加している。
- ・交通手段では、通学においては44.5%が「バス」と回答し、バスによる送迎が主となっている実態が伺える。

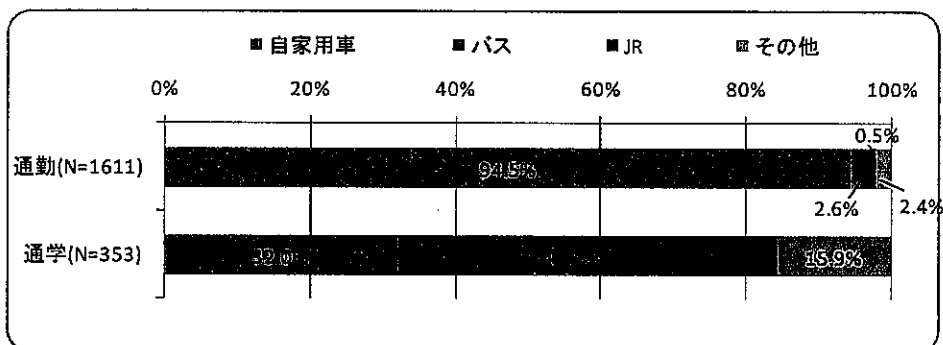
(1) 通勤・通学別人数 《世帯調査より》



(2) 通勤・通学の範囲 《世帯調査より》



(3) 主な交通手段 《世帯調査より》

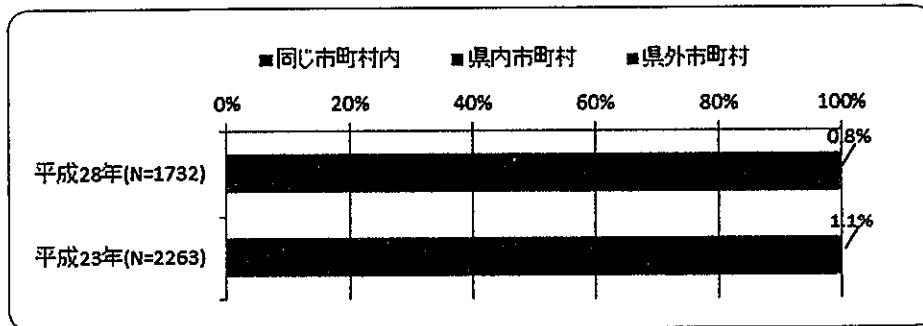


③ 通院

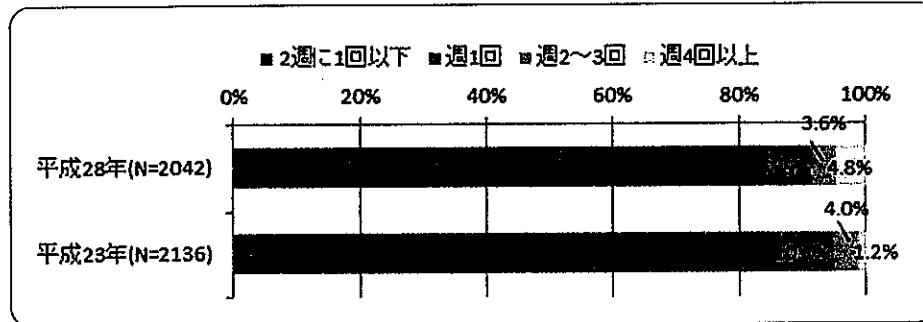
・通勤・通学と同様に、通院の場所においても、平成28年と比較して「同じ市町村内」が減少し「県内市町村」の割合が増加している。

通院の交通手段として、81.6%の方が自家用車を利用しており、公共交通機関の利用は13.4%と低い状況。

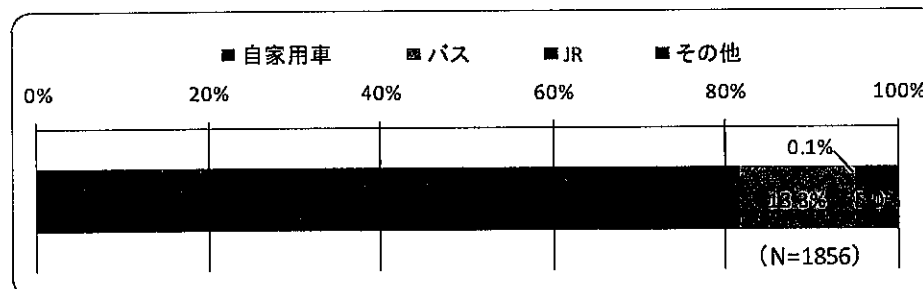
(1) 通院の場所 《世帯調査より》



(2) 通院の回数 《世帯調査より》



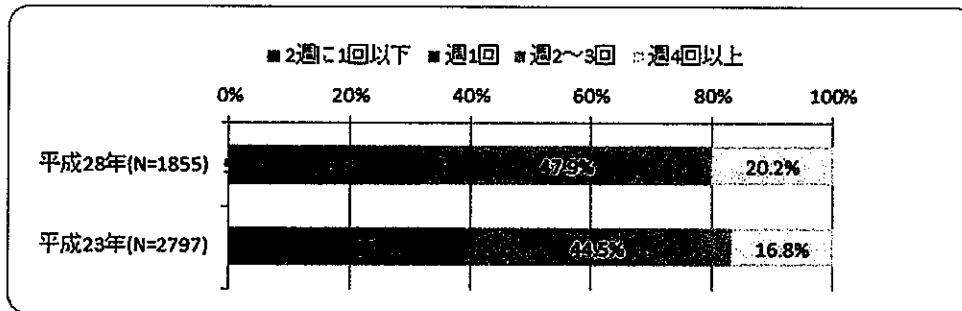
(3) 通院の交通手段 《世帯調査より》



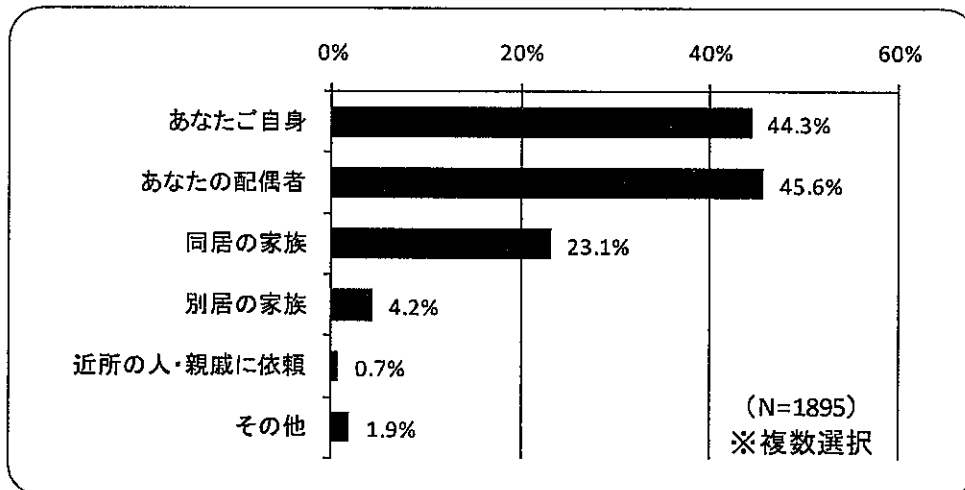
④ 買い物

- ・買い物回数の割合は、平成23年に比較して顕著な差は無いものの、2週間に1回程度であった世帯は減少している。
- ・「移動販売」や「生協」の利用も2番目の選択肢として多くなっており、約半数の世帯が「移動販売車が身近に来る」と回答している。

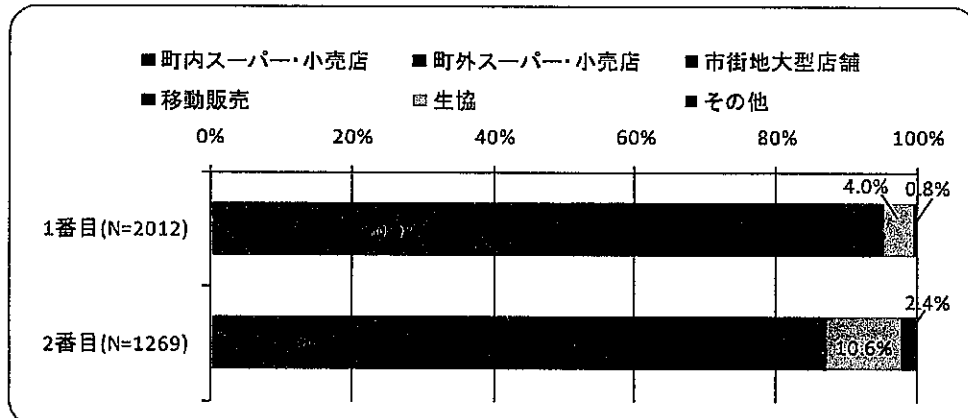
(1) 買い物の回数 《世帯調査より》



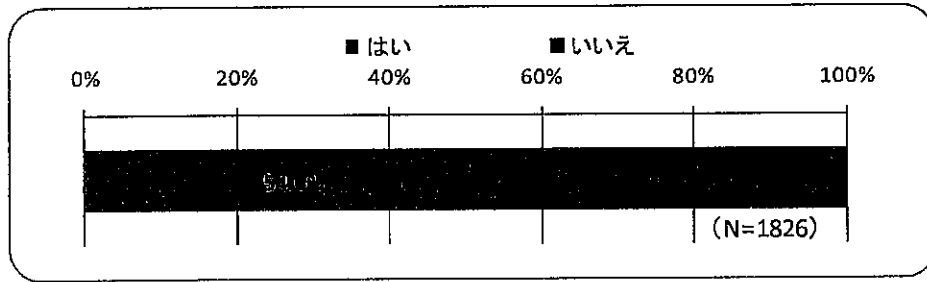
(2) 日常の食料品は主にだれが調達していますか？ 《世帯調査より》



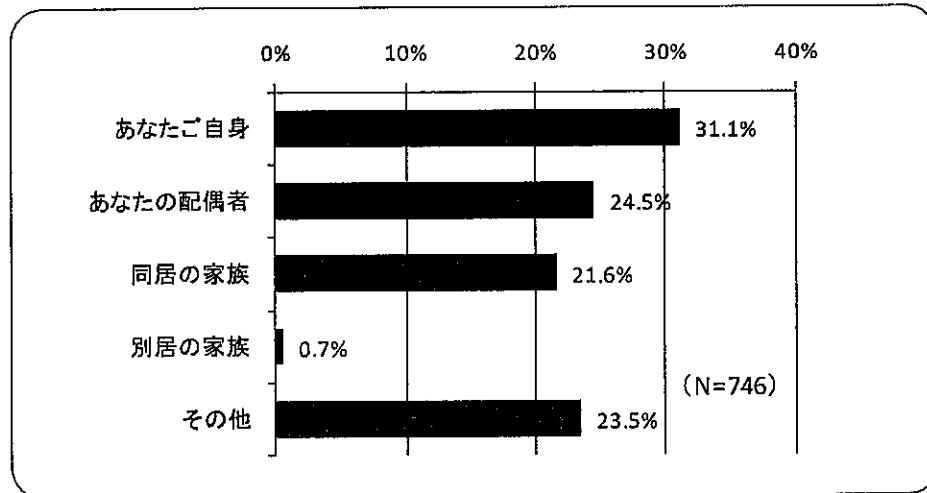
(3) 主な買い物先 《世帯調査より》



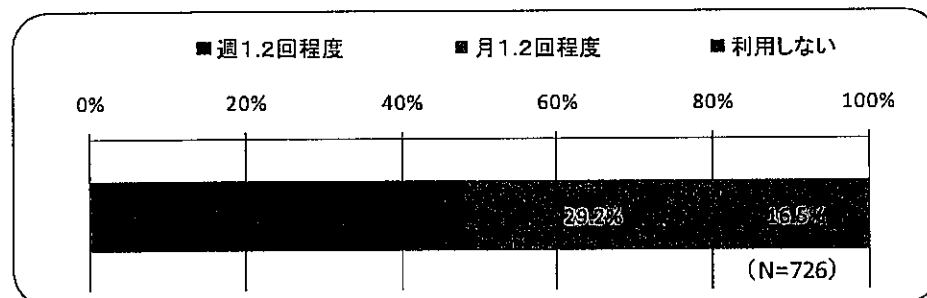
(4) 移動販売車が身近に来ますか？ 《世帯調査より》



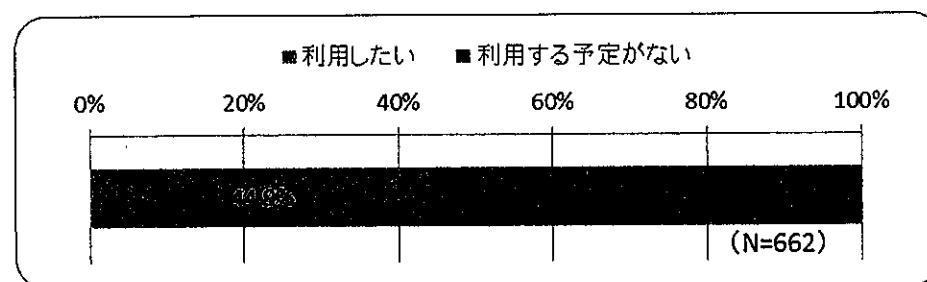
(5) 移動販売車の利用は主に家族の誰が利用していますか？ 《世帯調査より》



(6) 移動販売車はどの程度利用していますか？ 《世帯調査より》



(7) 移動販売車が身近に来ない方に質問です。今後、移動販売車を利用したいですか？ 《世帯調査より》

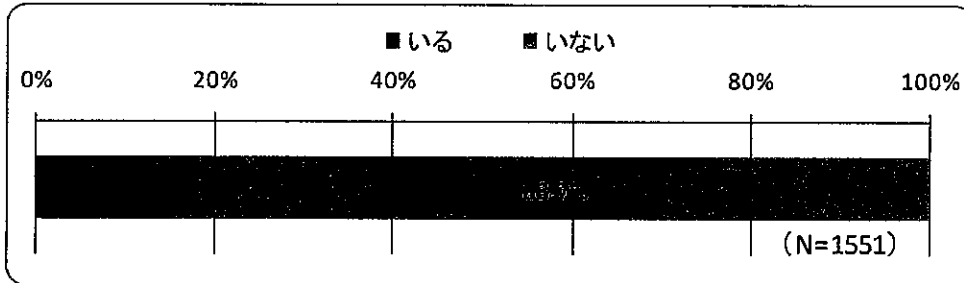


⑤ 保育園等への通学・通園

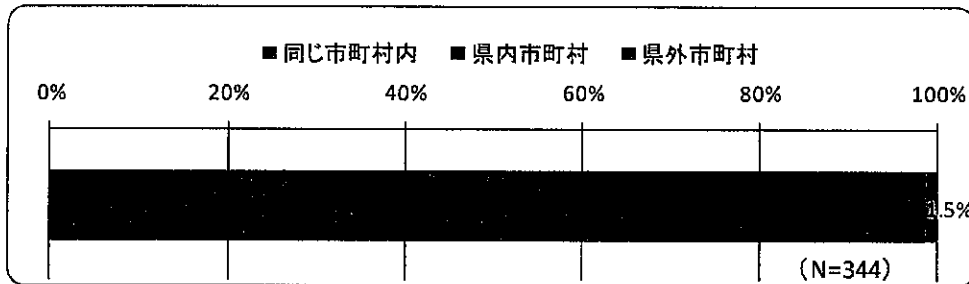
・保育園等への通学・通園は、16.3%の世帯が「いる」と回答しており、場所は同じ市町村
 村内で58.4%、県内市町村は40.1%となっている。

交通手段として32.0%の方が自家用車を利用、44.5%がバスとなっており、バスは保育
 園等の送迎バスと考えられる。

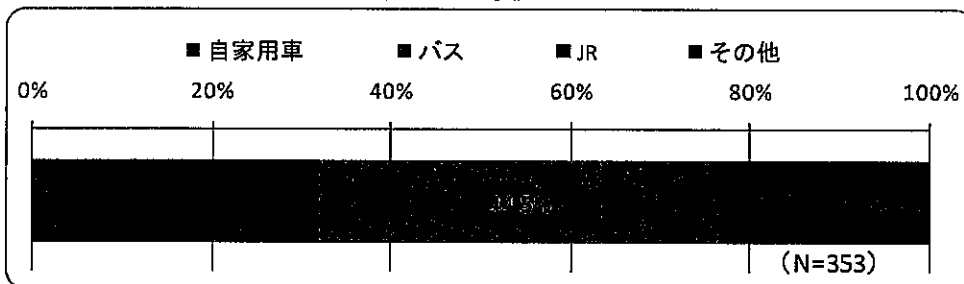
(1) 保育園等への通学・通園の存在 《世帯調査より》



(2) 通学・通園の場所 《世帯調査より》



(3) 通学・通園の交通手段 《世帯調査より》



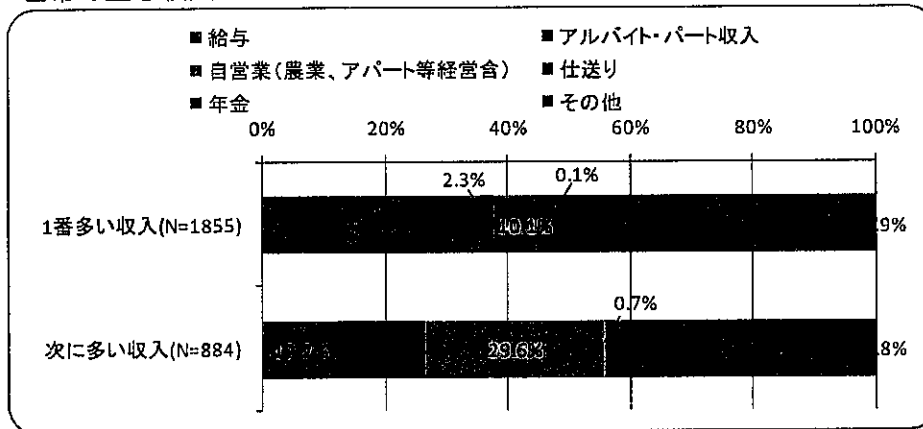
⑥ 暮らしの様子

・世帯の主な収入は、1番多い収入として「年金」の割合が最も高く、51.1%と半数以上に上っている。

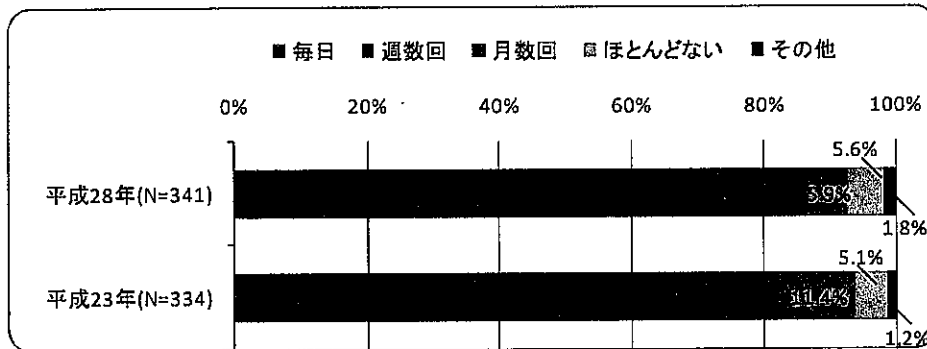
一人暮らしの方の会話の機会は、平成23年と比較して会話の回数が増加している。

独居世帯の方への声掛けとして「近所の人」が最も多く46.5%となっている。

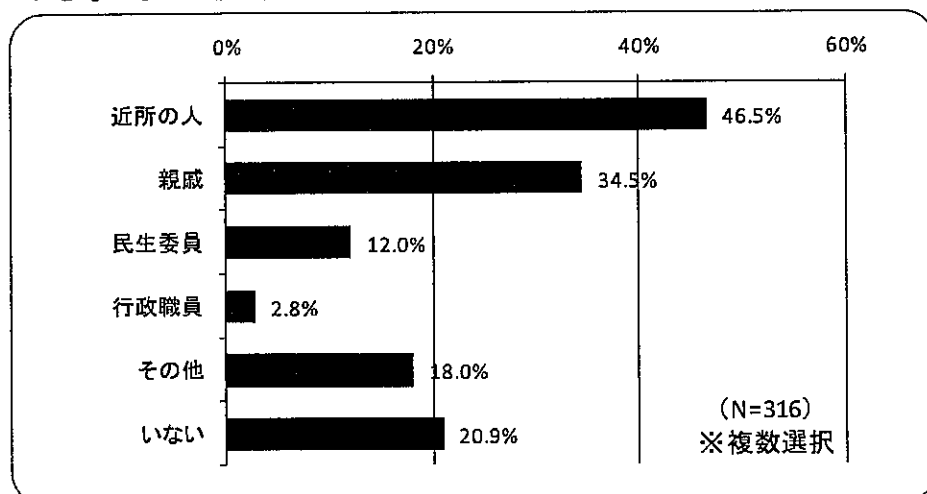
(1) 世帯の主な収入はなんですか？ 《世帯調査より》



(2) 【一人暮らしの方】誰かと話をする機会 《世帯調査より》

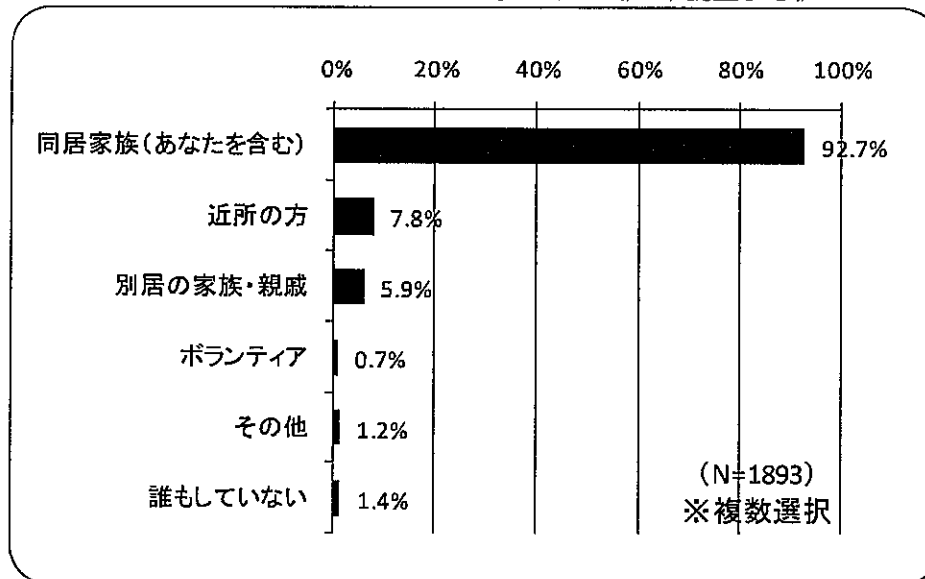


(3) 【一人暮らしの方】定期的に自宅訪問や電話連絡など「声かけ」をしてもらっている方はいますか。 《世帯調査より》



・積雪時の雪かきでは、92.7%が「同居家族（あなたを含む）」と回答しており、高齢化の進行によってより深刻な問題になると考えられる。雪かき・雪下ろしのサービスは、住み続けるために必要なサービスとしても上位にあがっている。

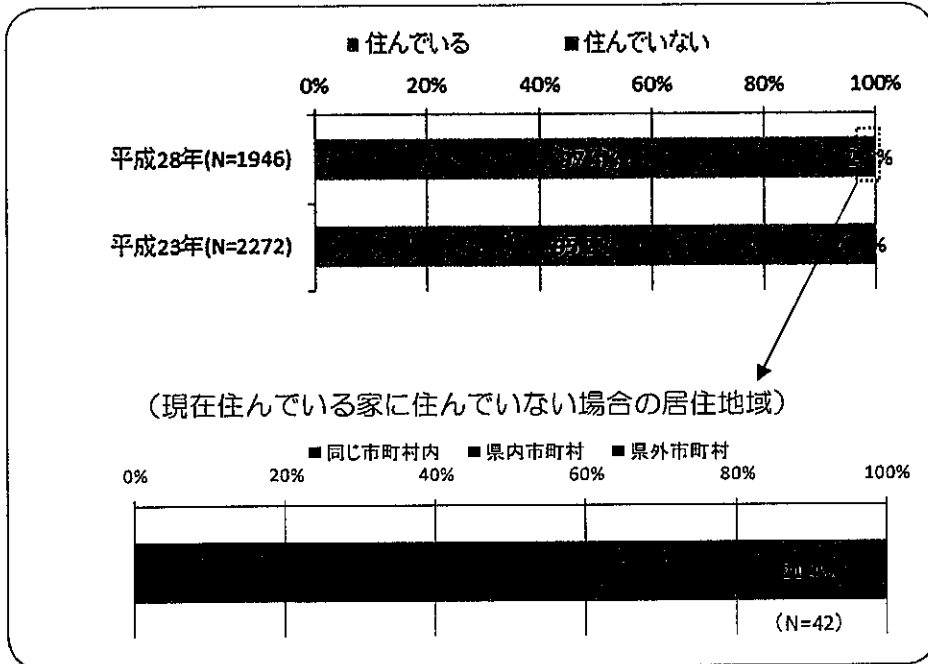
(4) 積雪時、自宅の雪かきは主に誰がしていますか？ 《世帯調査より》



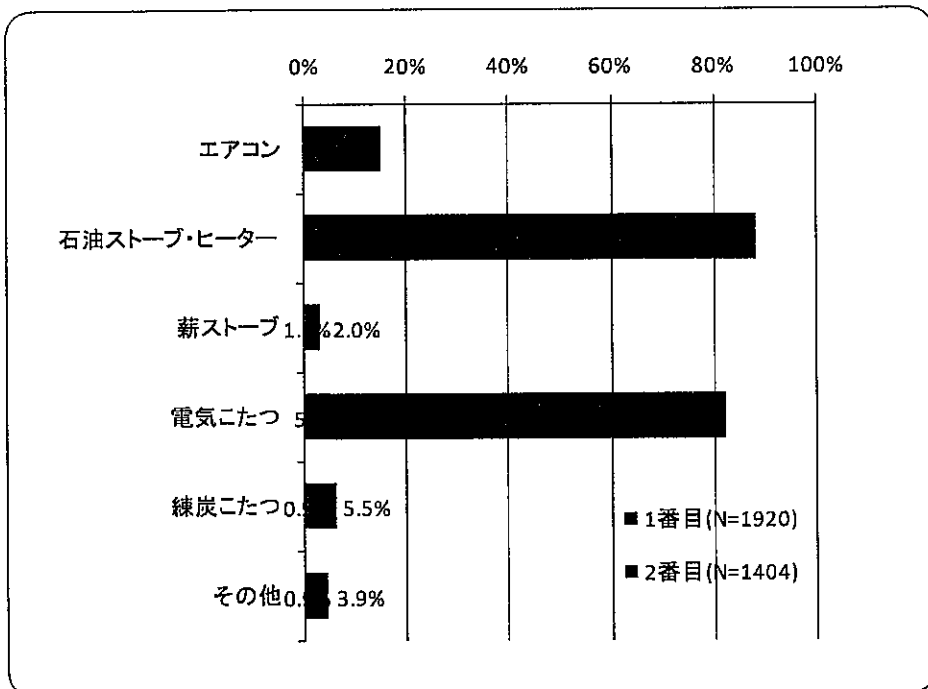
⑦ 住まいの環境

・住む家は、97.4%の世帯が現在の家に1年中住んでいると回答し、住んでいない場合には半数以上が住居が立地している地域外の市町村に住んでいると回答した。
 ・冬季に使用する暖房器具として「石油ストーブ・ヒーター」をあげる世帯が多く、高齢化に伴い配達を必要とする世帯の増加が想定される。

(1) 現在住んでいる家は、1年中住んでいますか？ 《世帯調査より》



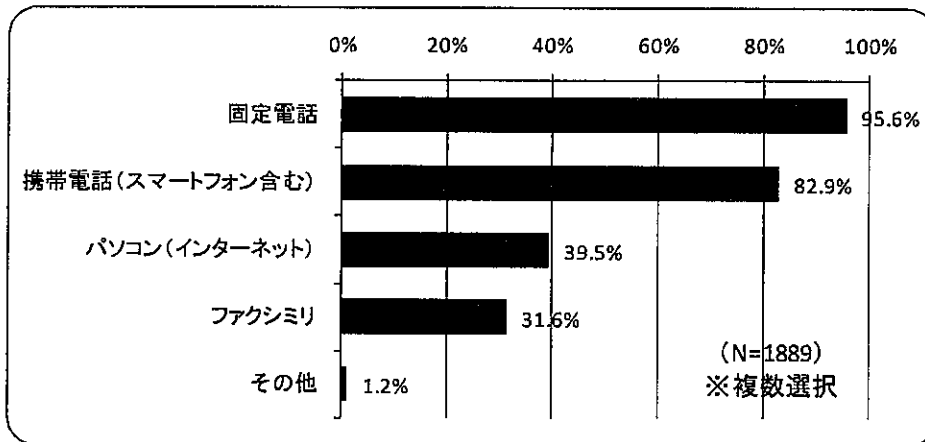
(2) 冬の間、居間で使っている暖房は、主に何を使っていますか？ 《世帯調査より》



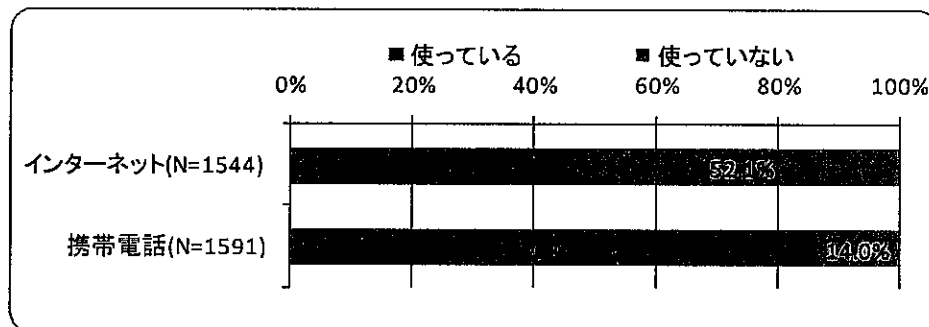
⑧ 情報通信機器の活用

- ・自宅にある通信機器では、「固定電話」「携帯電話（スマートフォン含む）」の割合が高く、インターネットは47.9%の世帯に、携帯電話は86.0%の世帯が利用している。
- ・一方、暮らしの安心情報を得る媒体は、「テレビ」「防災無線」「新聞」の順に高く、インターネットや携帯電話の利用は少なくなっている。

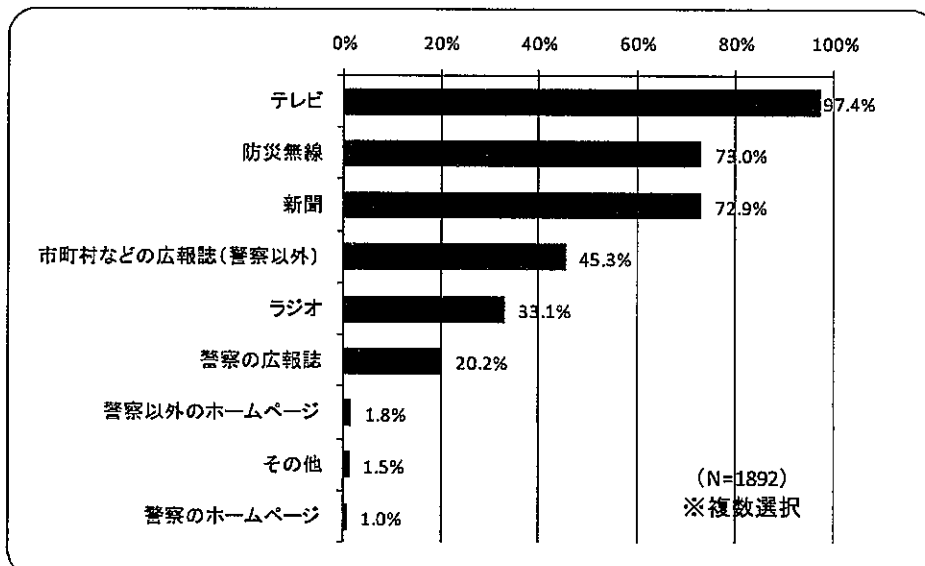
(1) 自宅にある通信機器 《世帯調査より》



(2) インターネット・携帯電話（スマートフォン、タブレット含む）の世帯普及状況 《世帯調査より》

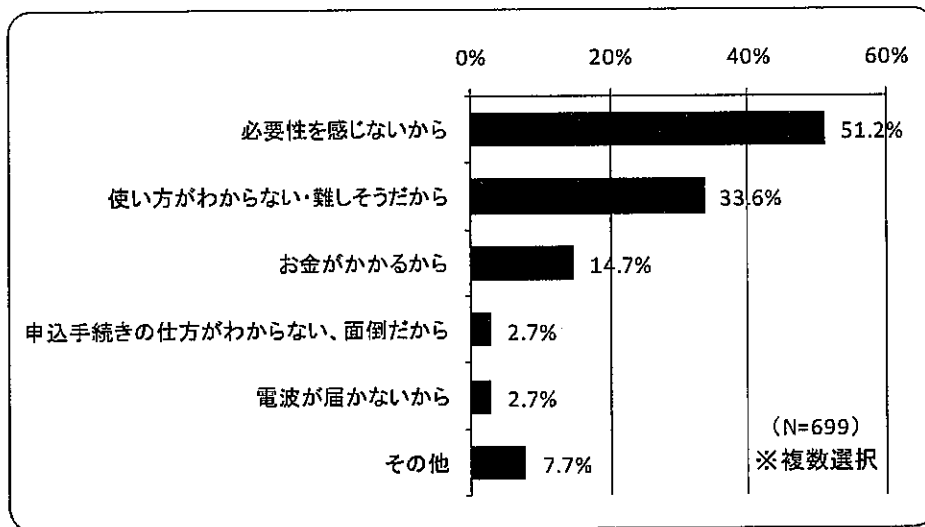


(3) 暮らしの安心情報を得る媒体 《世帯調査より》

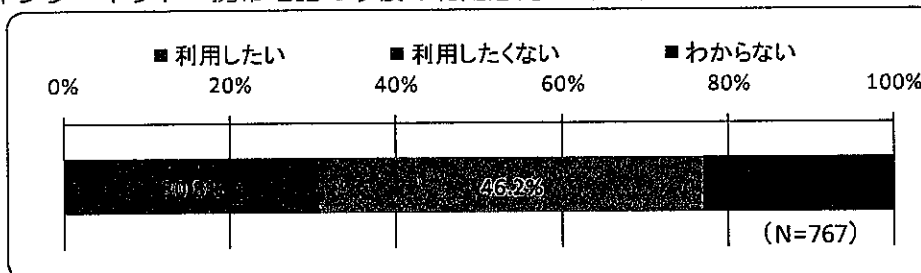


・インターネット・携帯電話を利用していない方の多くは、利用の必要性を感じていない
 また、非利用世帯では、今後の利用意向として30.8%が「利用したい」と回答した。
 今後、インターネットを活用した見守りや情報伝達には課題がある状況となっている。

(4) インターネット・携帯電話を利用しない理由 《世帯調査より》



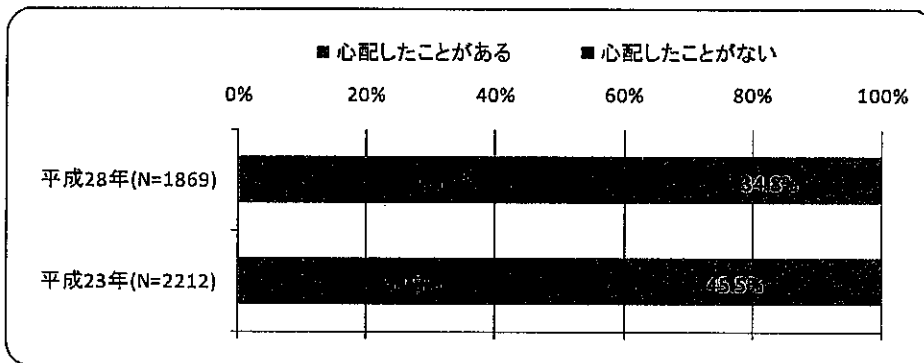
(5) インターネット・携帯電話の今後の利用意向 《世帯調査より》



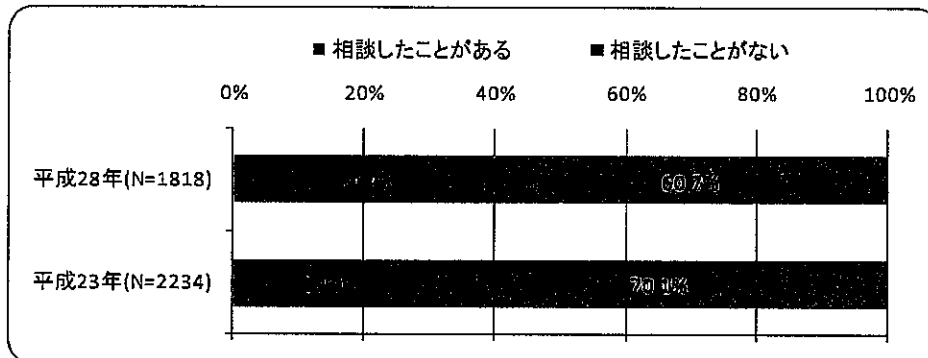
⑨ 災害対策

- ・災害時の孤立可能性については、「心配したことがある」の回答が65.2%と、平成23年の調査から10.7%増加している。
- ・災害時における家族との連絡方法についても、「相談したことがある」との回答が39.3%と平成23年から9.4%増加し、防災意識が向上していると考えられる一方、60.7%の世帯は依然として「相談したことがない」と回答した。

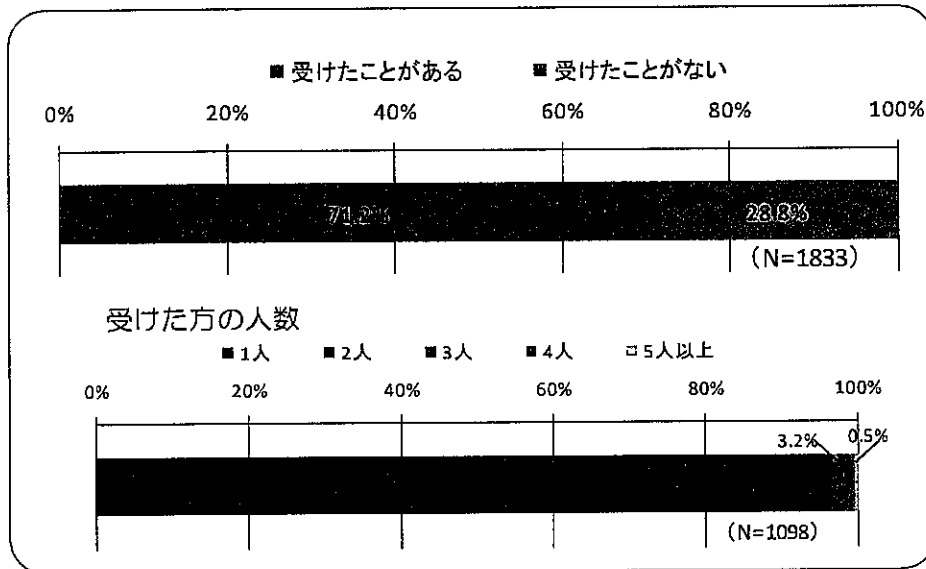
(1) 災害時（土砂崩れ、大雪など）に孤立する可能性を心配したことはありますか？
《世帯調査より》



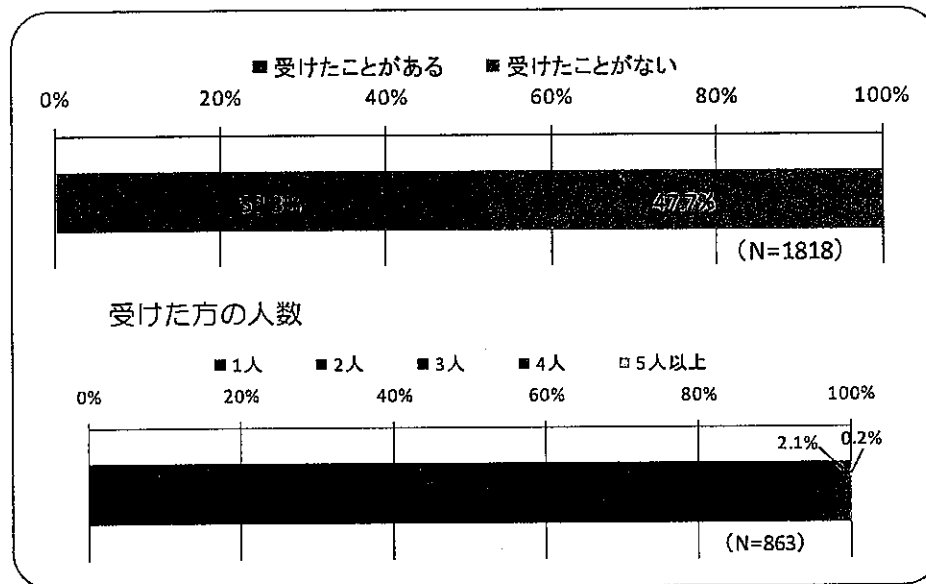
(2) 台風・地震など災害がおきた際に、家族との連絡方法を、家族で相談したことはありますか？ 《世帯調査より》



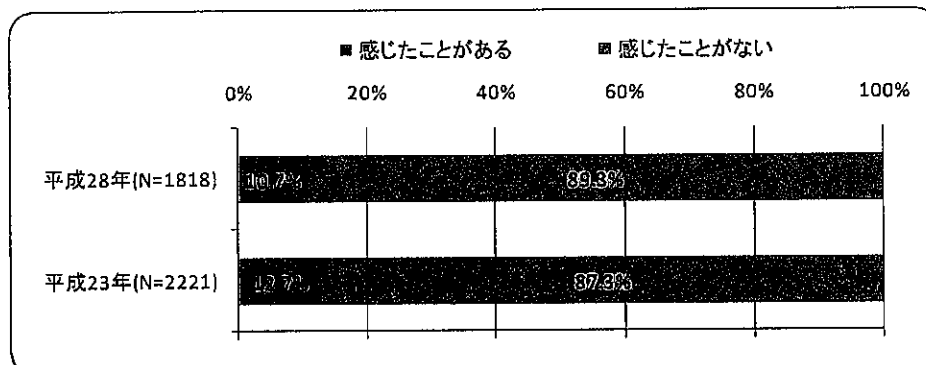
- (3) 家族の中に消火訓練（消火器の使い方・集落内の消火栓の使い方講習など）を受けた方はいますか？ 《世帯調査より》



- (4) 家族の中に救命手当（人工呼吸・心臓マッサージなど）の講習を受けた方はいますか？ 《世帯調査より》



- (5) 家族の中に今まで、犯罪に巻き込まれた又はその危険を感じた方がいますか？ 《世帯調査より》



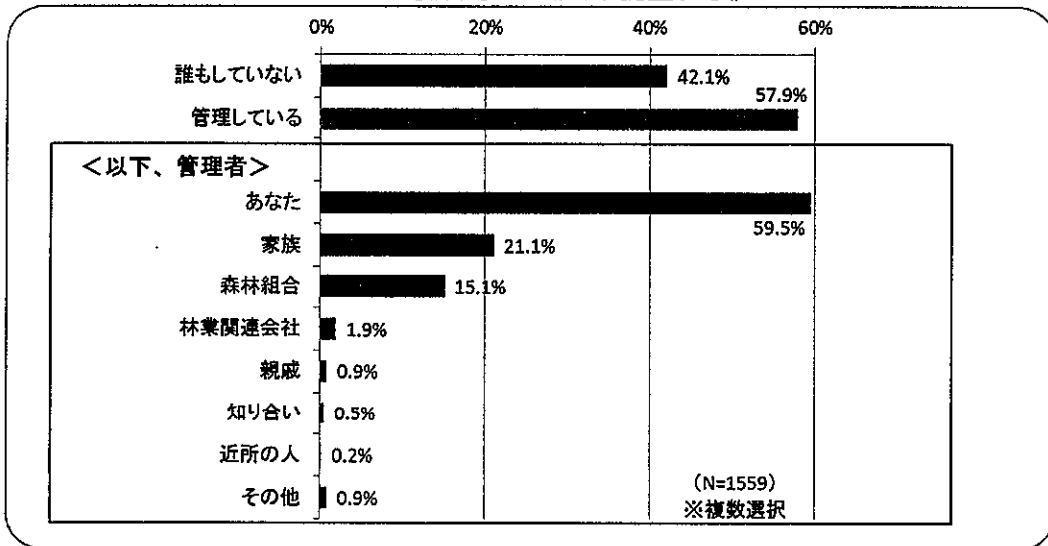
3 集落の環境と運営

① 山林・農地

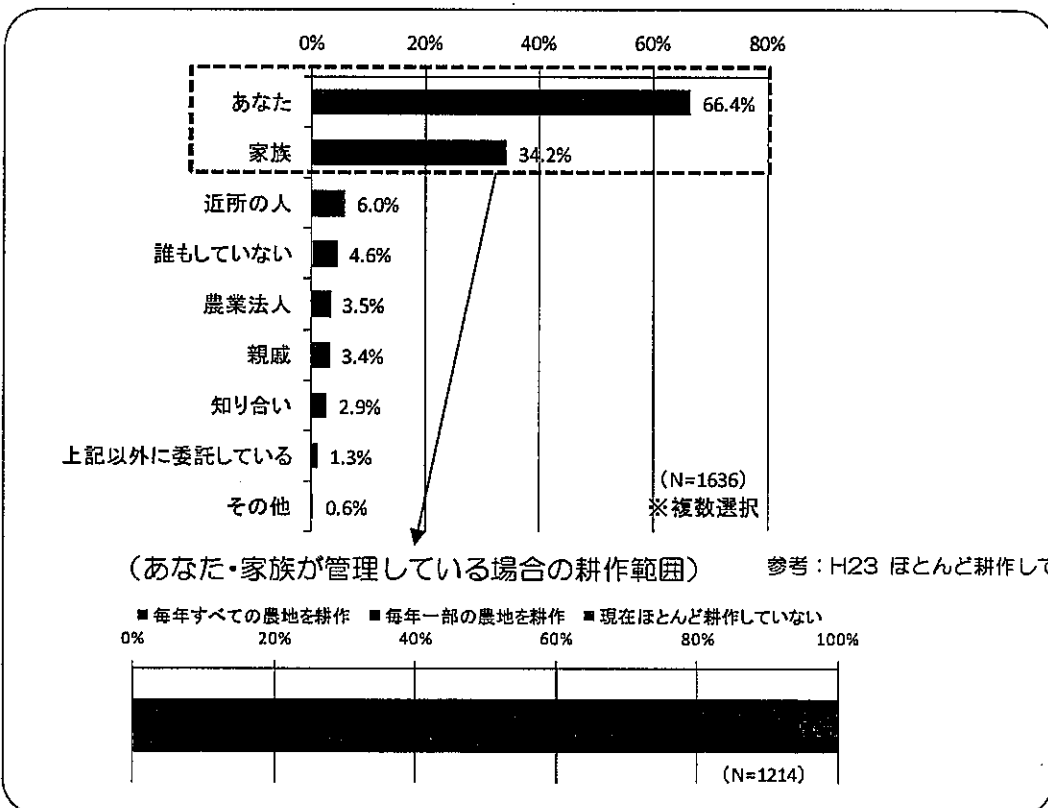
・山林の管理では「誰もしていない」の割合が42.1%と高い割合を占め、管理している場合80.6%が本人・家族の管理となっていることから、高齢化の進行に伴い、更に粗放化が進行すると懸念される。

・農地の耕作または管理においても「誰もしていない」が4.6%となっている。また、耕作している場合でも、「毎年一部の農地を耕作」との回答が50.9%となっている。

(1) 所有する山林の管理について〔新規〕 《世帯調査より》



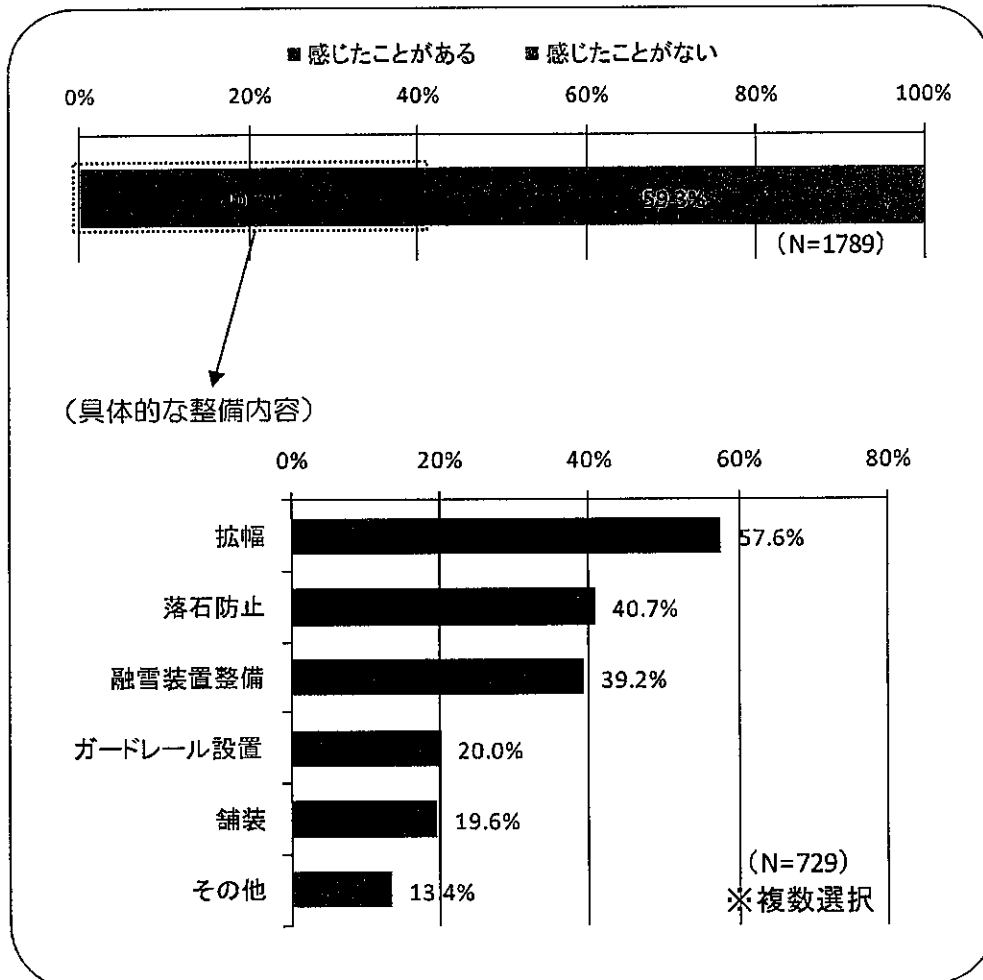
(2) 農地の耕作または管理を誰がしていますか？〔農地の管理者は新規〕《世帯調査より》



② 道路

- 道路整備の意向では、40.7%が道路を整備してほしいと感じたことがあると回答した。具体的な整備内容では、拡幅や落石防止、融雪装置整備が多くなっている。

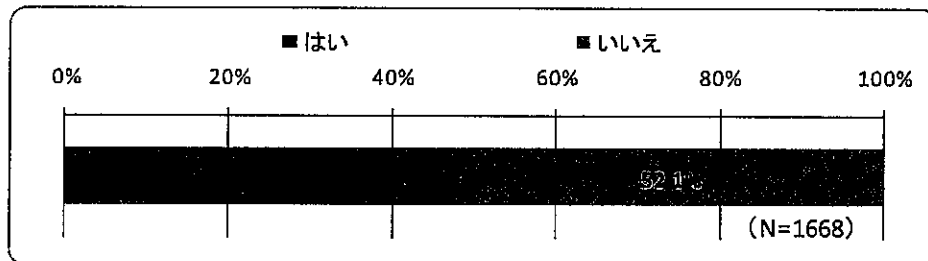
(1) 日頃通勤や買い物時に使用している道路が危険なので、整備してほしいと感じたことがありますか。《世帯調査より》



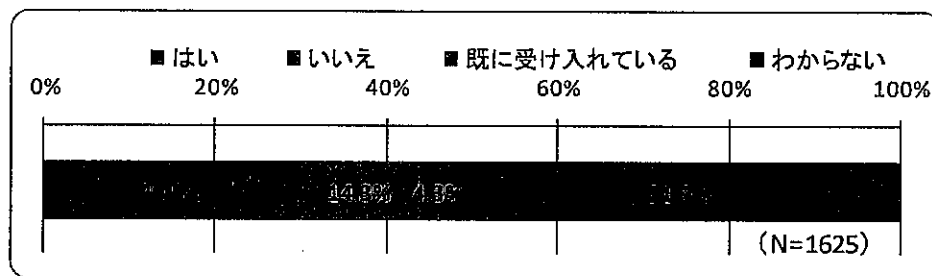
③ 地域おこし協力隊・集落支援員【新規】

- ・地域おこし協力隊や集落支援員については、47.9%と約半数が「知っている」と回答した。
- ・集落への受け入れについては、「受け入れたい（はい）」との意向がある世帯が29.5%となっており、さらなる導入の拡大が可能となっている

(1) あなたは「地域おこし協力隊・集落支援員」を知っていますか？《世帯調査より》



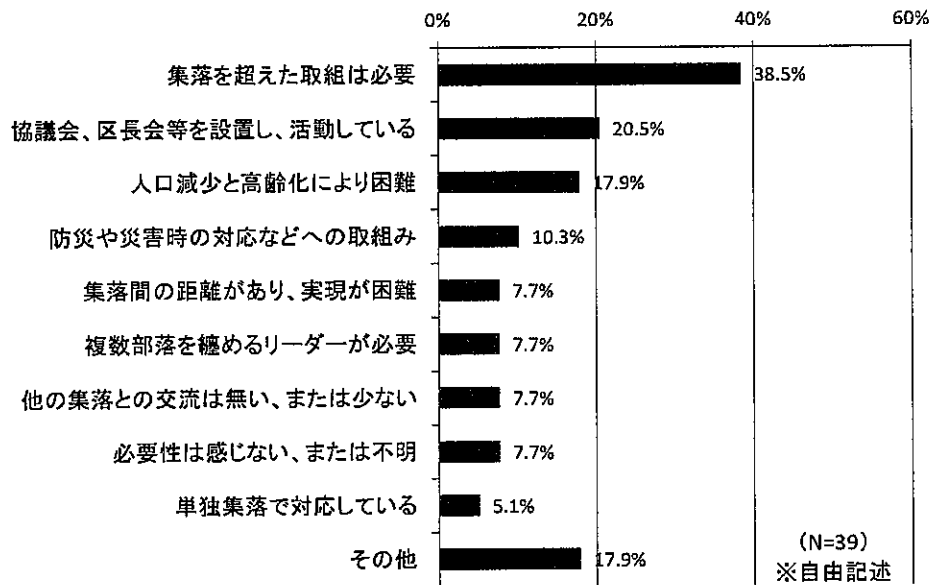
(2) あなたは「地域おこし協力隊・集落支援員」を、集落に受け入れたいですか？
《世帯調査より》



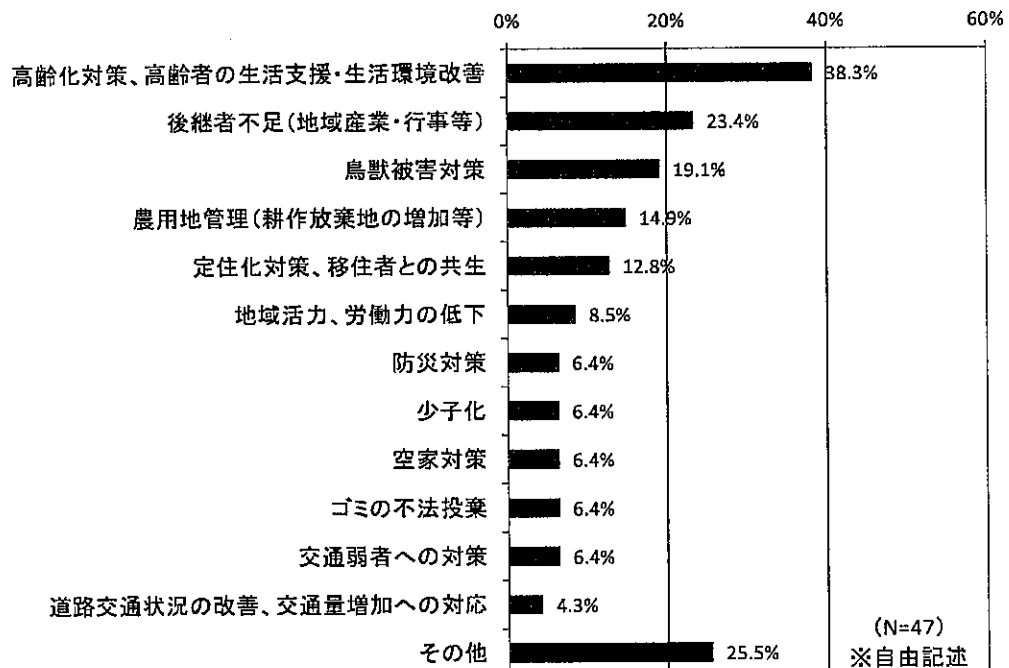
④ 集落を超えた取り組みと地域の課題

- ・集落を超えた取り組みについては、必要といった回答やすでに協議会等を設置して活動しているという将来に備えてた認識が高まっているとともに、すでに行動が始まっている一方で、実現には人口減少と高齢化により困難や集落間の距離があり実現が困難、リーダーが必要という意見もあがっている。
- ・地域の課題としては、高齢化対策が最も多く、次いで地域運営に必要な後継者不足をあげる意見が多くなった。

(1) 集落を超えた取り組みについて（自由記述） 《集落点検調査より》



(2) 今現在、地域の中で課題と思われるもの（自由記述） 《集落点検調査より》



3 特長的集落の抽出

どのような集落で次世代定住が進んでいるかを検証するため、集落点検調査の結果より、20代・30代の転入者が多い集落を抽出し、その特長を検証した。

下表は、20代・30代それぞれで、平成23年以降の過去5年間に5人以上（年間平均1名）の転入があった集落である。智頭町では最多の3集落が抽出された。

表 20代・30代の転入者が多い集落

市町村名	集落名	世帯数	集落人口	高齢化率	20代		30代	
					転出	転入	転出	転入
智頭町	芦津	99	234	49.1%	13	7	6	7
	波多	33	109	33.9%	9	3	4	9
	新田	19	55	38.2%	3	1	5	9
琴浦町	大父木地	12	35	34.3%	4	0	8	6
八頭町	大江	89	207	43.5%	14	10	3	1
	志子部	18	34	38.2%	4	8	1	1
若桜町	吉川	79	180	53.3%	15	5	3	1
湯梨浜町	埴見	46	155	32.3%	10	8	3	2
江府町	御机	37	120	47.5%	5	7	3	3
日南町	大菅	18	47	40.4%	3	6	1	2

大きく20代の転入が多い集落と30代の転入が多い集落とに分かれる特徴があるが、智頭町の芦津集落では20代・30代ともに7人（人口の3.0%）が転入している。

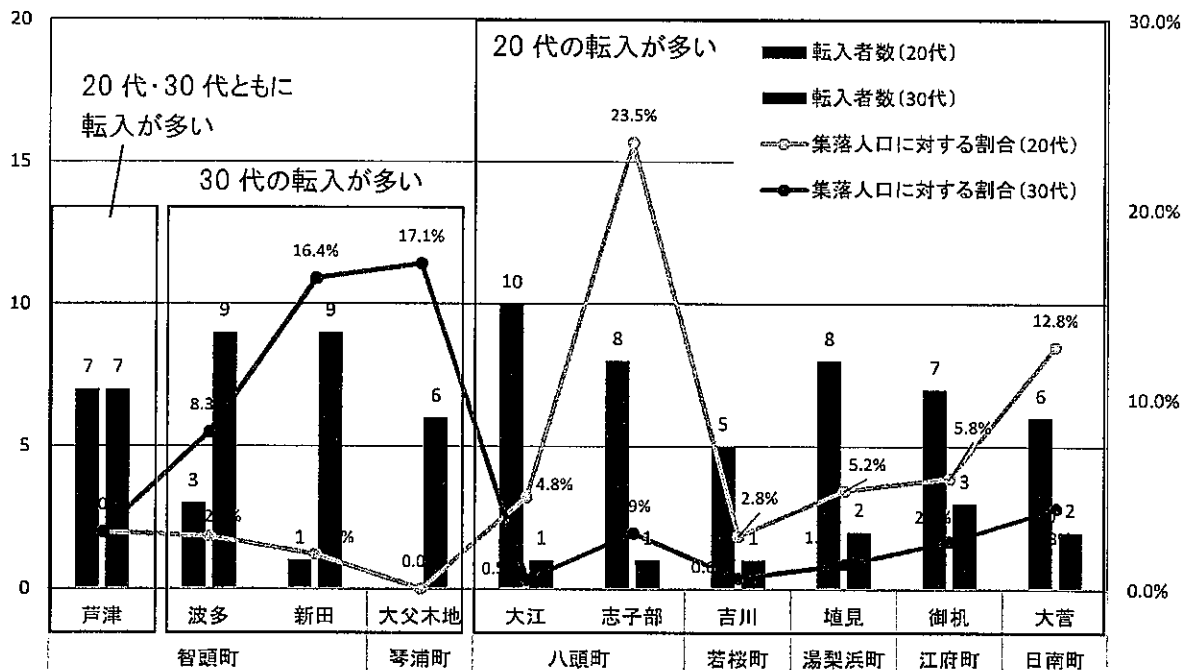


図 集落別の転入者数と集落人口に対する割合

20代、30代ともに転入者数と同程度の転出者数が見られるが、特に20代では志子部（八頭町）や御机（江府町）、大菅（日南町）で、30代では芦津・波多・新田（智頭町）で転入者数が転出者数を上回っている。

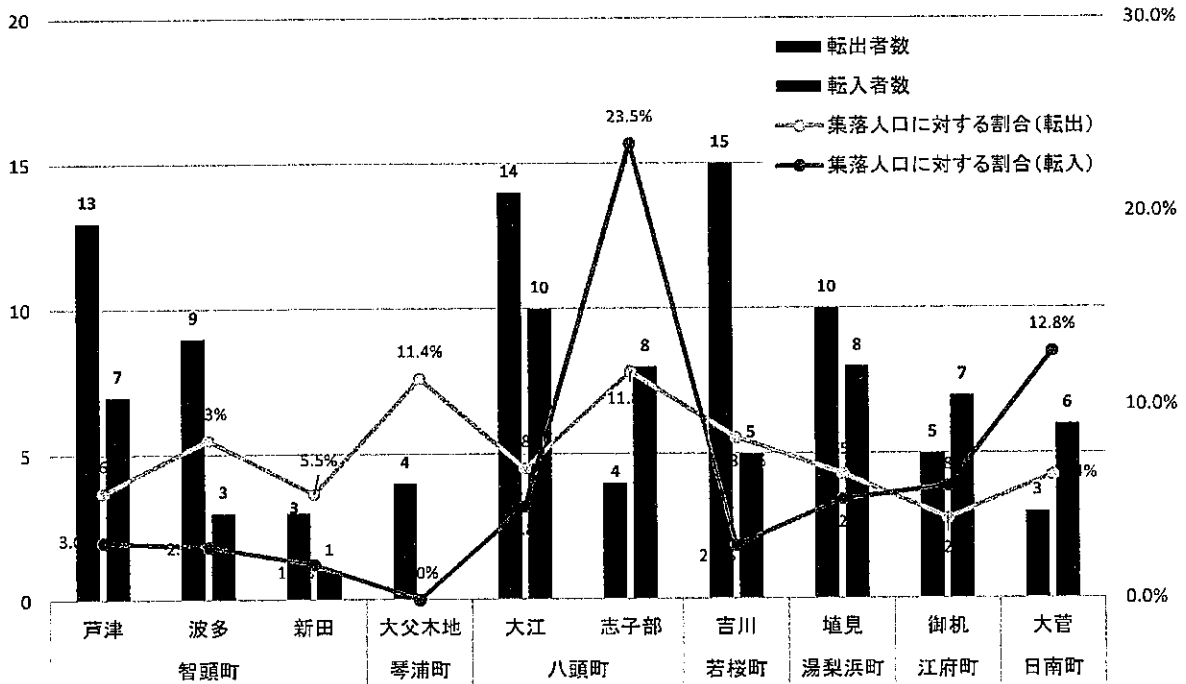


図 20代の転入・転出状況

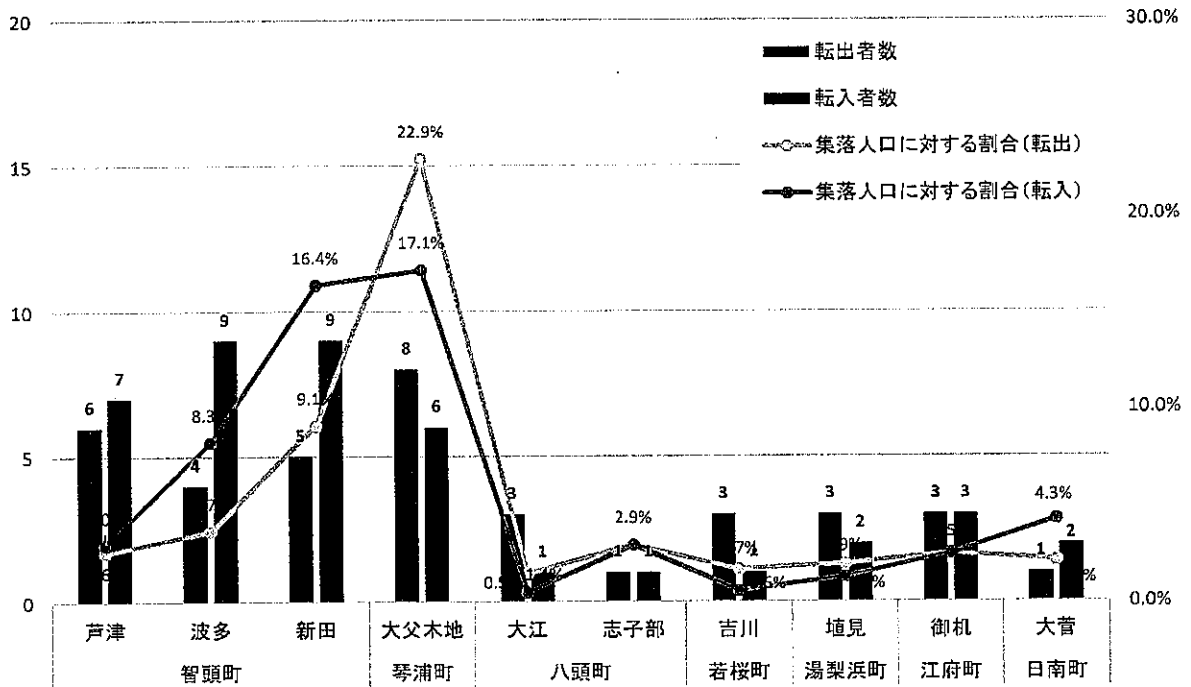


図 30代の転入・転出状況

転入元は下表のようになっており、過去からの県・市町村施策を導入して地域づくりに取り組んでいる芦津（智頭町）や志子部（八頭町）では1ターンが多くなっている。

表 転入者の転入元

市町村名	集落名	転入者数		転入元(20代・30代以外も含む)				過去5年間の施策 (集落点検調査より)
		20代	30代	町内	県内 (町外)	県外	1ターン	
智頭町	芦津	7	7	4	8	3	6	町補助事業(棚)・ワナ・オリ
智頭町	波多	3	9	4	7	2	-	
智頭町	新田	1	9	4	0	5	0	地域おこし協力隊
琴浦町	大父木地	-	6	-	4	2	-	
八頭町	大江	10	1	1	4	8	3	
八頭町	志子部	8	1	1	2	8	8	
若桜町	吉川	5	1	0	4	5	-	
湯梨浜町	埴見	8	2	4	3	6	-	
江府町	御机	7	3	4	9	3	3	
日南町	大菅	6	2	-	2	6	-	

※ 上記地区の内、過去の県・市町村支援地区

- ・うるおいのある村づくり対策事業 智頭町新田、若桜町吉川
- ・若者定住による集落活性化総合対策事業 八頭町志子部
- ・共生の里 八頭町志子部、江府町 御机
- ・6次産業化支援、企業誘致 八頭町 大江、江府町 御机
- ・中山間地域等直接支払制度 [智頭町]芦津、波多、新田、[八頭町]大江、志子部
[若桜町]吉川、[琴浦町]大父木地、[江府町] 御机
[日南町]大菅

今回調査対象集落の内、県の移住施策により高い効果を上げている事例

事業名：若者定住等による集落活性化総合対策事業

1 集落名：智頭町 八河谷集落

<活動の特徴>

- ・麻を活用した地域活性化に取り組み、法人化を実現。
- ・耕作放棄地であった農地において麻の栽培を進め生産拡大により耕作放棄地の解消につながると共に、将来的には雇用創出につながるものと期待される。

2 集落名：八頭町 志子部集落

<活動の特徴>

- ・鳥取県内と鳥取県外との人をつなぎ、地域に呼び込むことを目指し、定期的に交流イベントを開催
- ・地域内の未利用の空き家を集め、移住者に提供する取組を実施中

